

京都市の第37回「花と緑の市民フェア」における園芸福祉活動のPRについて

NPO法人 京の園芸福祉研究会
理事 嘉住熊二

平成18年4月22日(土)～23日(日)の2日間京都市勤業館(みやこめっせ)において、「花と緑の市民フェア」が開催されました。

このイベントは、京都市と京都市花き振興協会が主催で、春の花と緑の祭典の大イベント、今年で37回目となっております。

開催趣旨

「花と緑の普及啓発を目的に、市民が参加できるイベントとして、花と緑による美しいまちづくり、明るく豊かな心と潤いのある生活の実現を、業界あげて提案する。」ものです。

こうした市行政と業界団体及び150万人の市民が、ともに一丸となってまちを花と緑一杯にして、人の心の潤いと癒しの運動は、地球温暖化防止の一環でもあり、福祉の観点からも意義あるイベントと思われれます。



「花と緑のフェア」へのNPO法人京の園芸福祉研究会の参画

NPO法人京の園芸福祉研究会もこのようなイベントに機会がある毎に積極的に参画し、園芸福祉のPRに努めてきました。今回は京都市からの要請で市民フェア会場の一隅(約10坪)を園芸福祉コーナーとして配分され、そこで相談コーナー、パネルの展示、パンフの配布、ユニバーサルプランター(レイズドベッド)展示・体験コーナーの設置スペースをいただき参画しました。

市民へ訴えたもの

“園芸福祉活動とは”についてのPR

初級園芸福祉士による実践活動パネルの展示、初級園芸福祉士・研究会役員による園芸福祉についての相談対応、ユニバーサルプランター(レイズドベッド)による車椅子からの花づくりの展示と実演。

園芸福祉のパンフレット、実践事例集の頒布。

工場から出る廃パレット、木材、竹材を炭化し園芸資材(土壌改良剤)として活用するため、来場の市民にサンプル(5入り100袋)を無償配布。

初級園芸福祉士養成講座の受講生を募集



参加者の反応

他のイベントコーナーと異なったコーナーであったので、高い関心をもって質問されたり、説明を聞き、熱心にパネルに入った情景が展開された。

コーナー立ち寄りの主な人々

- ・ 衆議院議員 伊吹文明代議士
- ・ 京都市星川副市長
- ・ J A京都市組合長
- ・ 京都市議会議員 多数(5名)
- ・ 京都市産業観光局長、同農林振興室長
ほか農林、福祉関係職員
- ・ 日本農業新聞社記者
- ・ 花卉園芸新聞記者
- ・ 京都新聞社記者
- ・



京都市身体障害者団体連合会 伊吹文明会長(衆議院議員)



一般参加者の反応

- ・ 大勢の参加者が立ち寄ったが、花と緑への関心が高く、福祉への関心はあまりない模様であったが、説明により福祉と連動することを知りより関心が高まるようであった。とくに、パネルと説明を聞き理解を深めたように思われた。
- ・ みんなで花づくりに取り組む楽しさに共感をえたとの感想があった。

マスコミ対応

日本農業新聞社記者が取材にこられ、満川理事長、高林副理事長の説明に熱心に取材、さらに、一般参加者からも取材され、良い取材ができた喜んで帰られた。

まとめ

園芸福祉について、まだ、一般的には知られていないし、関心も低いのが現実であります。あらゆるイベントに出向きPRすることが必要であると痛感した。参加者のおおくは、ガーデニングとしての園芸に関心が高いが、みんなで楽しむのが園芸福祉の基本と説明すると、納得された。また、レイズドベッドの展示コーナーでは、自分達も近い将来に足腰が不自由になるのは間違いないので、このような花壇に関心が高かった。

